

小諸義塾



小諸未来義塾 (KMG)



明治26年11月に小諸の青年、小山太郎等の熱い要請に応じて、木村熊二によって誕生した私塾「小諸義塾」。個性に満ちた教師陣で構成され、行政からの積極的な支援もあった中、諸問題によりわずか13年で閉塾となりました。

塾は閉じましたが、今なお小諸義塾の精神は受け継がれ、平成29年1月20日に市内高校と市が連携して「小諸未来義塾」を発足しました。

高校生と小諸市が連携して地域の活性化を考えます。

▼問い合わせ先 企画課 市民協働推進係

現在、地方創生の取組みが全国的に広がりを見せるなか、小諸市においてもさまざまな取組みを行っています。人口減少に悩むときこそ、地域内での連携を強くし、小諸の魅力を発信していくことが必要と考えられます。今回の特集では、その取組みの一環として発足した「小諸未来義塾」を紹介します。

小諸未来義塾とは

高校と市で地域活性化を考える

「小諸未来義塾」の目的は、市内の高校（小諸高校・小諸商業高校）と小諸市が連携して、様々な事業を行うことにより、地域の資源を活かした取組みを通じて、小諸市行政と学校教育の相互理解を深めるとともに、生徒の主体性を育み、地域に貢献できる人材を育成することです。

生徒が市の事業に直接的に関わりを持つことで、地域との関係性を持つことができ、生徒自らが地域の一員としての自覚が芽生え、地域貢献に関心を持てるようになります。また、市が行う事業に、生徒の視点や発想を組み込むことで、より実用性のある事業へと成長し、その効果も上がるのが期待されます。

小諸が潜在的に持っている魅力や抱えている課題に、生徒のアイデアを尊重しながら向き合うことで地域活性化につなげる「小諸未来義塾」

塾」。その精神は、明治26年11月まで遡ります。近代教育を先駆けた「小諸義塾」の精神を受け継ぎ、小諸の明るい未来へ向けて歩んでいく想いを込めて名付けられました。（小諸義塾について3、4ページで紹介。）

「小諸高校」「小諸商業高校」「小諸市」が今後も強いつながりを持ち、地域活性化のために「何ができるのか」を考え、実践していきます。

